

## 第6回聖籠町生涯活躍のまち構想研究会 議事要旨

日 時	平成 29 年 2 月 23 日（金） 13 時 30 分～15 時 45 分
場 所	聖籠町役場会議室
出席者	委 員：窪田昌行会長、地濃茂雄委員、天尾壮一郎委員、石塚純委員、鈴木典子委員、手嶋京子委員、岩村正史委員、三品勝義委員、望月健三郎オブザーバー（代理） 聖籠町：近藤総務課長、高松総務課長補佐、松井町民課長補佐、中山保健福祉課長補佐、牧野主任 日本総合研究所：渡辺康英（記）
資料	資料 1 住民向けアンケート調査結果 資料 2 聖籠町生涯活躍のまち構想研究会報告書（案）について

### 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

会長 聖籠町の地域特性を活かして、将来のまちをどのようにつくるべきかを考えてきた。資料の P32 では、要介護認定率が示されている。75～79 歳では、女性の要介護認定率が低い。関東圏に比べてもこの年代の要介護認定率は低く、聖籠町では女性が活躍していることがうかがえる。これからどのように取り組むべきか、アンケート結果を踏まえて第 6 章を中心に議論したい。

### 3. 議事

#### （1）住民向けアンケート調査結果について

事務局 資料説明（資料 1）

委員 P11 について説明をお願いしたい。

事務局 自由回答方式で意見をいただいた。取り組むべき理由と、取り組むべきではない理由の一端を掲載している。

委員 生涯活躍のまちの実現に向けて、住民との協議の場をさらに設けたほうが良いのではないか。

委員 アンケート調査は 1,000 人に配布し 37%の回収率ならば高いと思う。これまで言われてきた意見が出てきており、内容はもつともだと思う。ただし、このアンケート調査の結果で、生涯活躍のまちを進めるべきと判断するのは難しいかもしれない。

委員 60 歳以上の住民について、生涯活躍のまちの認知度が高いことは予想外の結果であった。介護を身近に感じているのかもしれない。アンケート調査結果では、若年層の雇用の場の創出の期待もあれば、若年層の負担が増えるといった、相反する意見が見られるが、どのように捉えるべきなのか。

事務局 南魚沼市でも生涯活躍のまちを検討しており、60 歳以上の方々に知られていたのかもしれない。福祉や介護への関心の高さがこうした結果になったのではないか。

- 委員 60歳以上の住民は、生涯活躍のまちを、介護や高齢者向け住宅として捉え、関心が高かったのではないかと。生涯活躍のまちは、介護や高齢者向け住宅のイメージが強いのではないかと。
- 会長 地域包括ケアシステムはまだ普及していない。病気などをもちながらも住み慣れた場所で暮らし続けられる仕組みはできていない。介護予防などへの関心もまだまだ低い可能性がある。
- 委員 若い人の関心が低い、生涯活躍のまちを福祉や介護のイメージで捉えているのではないかと。
- 会長 今後、診療報酬や介護報酬が改定される可能性がある。今は転換期を迎えていると言えるが、若い人にとって実態が結びつきにくいかもしれない。
- 委員 シンポジウムでも年配の関心が高かったため、こうした結果になるだろう。自由回答してもらおうと、こうした回答になるだろうが、その心を尋ねると、若年層も将来について不安を抱えているかもしれない。
- 委員 若い人が関心を持たないのは仕方ない。しかし、雇用以外で、若い人をどう巻き込むかが課題ではないかと。
- 会長 将来に向けて安心できる地域で暮らしたい若い人はいるかもしれない。
- 委員 生涯活躍のまちは、福祉の問題として捉えるのではなく、さらに上位となる持続可能な地域づくりの視点から考える必要がある。すでに都内であっても空き家が多数発生して問題になっている。福祉を充実すると、なぜよその人のために税金を使うのかという話になりがちであり、住民が主体的に生涯のまちについて検討すべきではないかと。住民の危機感が薄いかもしれないが、将来に向けて持続可能なまちをつくらないといけな。将来まちづくりに向けて、住民に対する広報活動が重要になる。
- 会長 人生の最後の住まい方をどうすべきか、重要なテーマになっている。

## (2) 聖籠町生涯活躍のまち構想研究会報告書(案)について

- 事務局 資料説明(資料2)
- 委員 希望になるが、住民が主体になって生涯活躍のまちを検討すべきではないかと。現在の聖籠町のボランティア活動や地域活動を中心としながら、その上に生涯活躍のまちを築いていく必要がある。
- 委員 生涯活躍のまちに取り組むべきとした場合、住民との話し合いの機会を設けるべきではないかと。住民の意見を聞きながら実現を図るべきではないかと。
- 委員 町民と転入者に分けることには違和感がある。両者とも住民である。新しい住民とすでに暮らしている住民の分け方ならば分かりやすい。聖籠町としてのプラスアルファをどのように打ち出すべきなのか。生涯活躍のまちへ投資しても回収できないのではないかと。住宅を建てるのではなく、空き家を改修して活用したらどうか。また、生涯活躍のまちは、新潟聖籠病院の近くでなくても良いのではないかと。
- 委員 アンケート調査では60歳以上の住民の関心が高いが、施設を整備することを念頭において回答したわけではないと思う。聖籠町の今後の取り組みとして、いつ、誰が、生涯活躍のまちを進めるべきと判断するのか。

- 事務局 どこで判断するのかは決まっていない。報告書を最大限に参考にして判断するだろうが、現時点では未定である。
- 委員 この報告書をベースにして、次の段階を検討するのか。次の段階でこの報告書の内容が変わる可能性があるのか。
- 事務局 この報告書には縛られることは無いと思う。首長が取り組むと判断した場合、あるいは事業計画を立てる場合に最大限にこの報告書を活かすことになる。
- 委員 報告書の終盤に加筆するのか。
- 委員 判断の材料とするならば、選択肢は開発だけではないと思う。聖籠町では人口が増加しているが、日本全体では今後人口が減少するので、人口減少を前提として考えるべきである。開発だけではなく両論併記にすべきではないか。
- 会長 米国では一人暮らしができなくなった人たちが CCRC に入居している。生活支援を受けて、人生の最後の段階を安心して暮らせるまちにしている。生涯活躍のまちも、一般的な開発ではなく、在宅をベースとしたまちづくりであり、その核となる施設が生涯活躍のまちである。
- 委員 日本の CCRC は、国のシナリオでは開発型ではないか。
- 会長 生涯活躍のまちは、多世代と交流しながら、必要に応じて医療・介護を受けることができるまちづくりであり、地方創生の施策の一つと捉えている。
- 委員 別な視点を乗せたらどうか。両論併記ではどうか。
- 委員 生涯活躍のまちは、人生の将来設計の一つではないか。既存のもので活用できるのであれば、それでよいが、なければつくりたいといけない。行政だけではできなとなれば、民間を入れないといけない。全体のマネジメントは今後の課題である。この部分だけで回答を書きすぎないようにしたらどうか。民間事業者としても、現段階では取り組むことができないのではないか。選択肢として、一語加筆したらどうか。
- 委員 書き方は工夫が必要であり、慎重な考え方も含めてはどうか。生涯活躍のまちを実現するとした場合、ある地域に生涯活躍のまちをつくと、そこから離れた場所に住む人への配慮が必要になることが問題になるのではないか。
- 会長 地域包括ケアシステムは、在宅サービスが基本にあり、離れた地域の人もサービスを提供することになる。
- 委員 町長に報告するなら、心配な部分、あるいは完結しない部分も指摘して町長に提出したらどうか。
- 会長 これは基礎調査であり、次のステージで構想をつくることになるのではないか。事業構想段階で、資金などについて検討することになるのではないか。
- 委員 生涯活躍のまちは、中心地をつくることだけではないと思う。新潟聖籠病院の周辺エリアで生涯活躍のまちをつくるのではなく、狙いは 24 時間の訪問介護サービスを実現することではないか。現状の介護体制などにプラスすることでもよいのではないか。新潟聖籠病院の周辺エリアに限定しては、結論ありきを感じる
- 委員 具体的な場所などは、次の段階の話ではないか。これで報告して、次の段階で深堀する問題ではないか。
- 会長 今回はイメージの段階でとどめるという意見である。次の段階で、事業内容を検討することではどうか。

委員 段階的に検討したらどうか。次回の研究会で報告するならば、この程度の表現にとどめて、次のステップで検討すべきことではないか。

委員 調査目的では、メリットとデメリットを示して検討材料を示すこととしており、第6章を示すべきか検討すべきである。生涯活躍のまちのメリットがより大きく取り上げられているのではないか。デメリットをどのように示すのか、次の段階での話になるのか。

委員 事業スキームが先に出ているので、掲載の順序を変えたらどうか。

会長 最終的には町民の判断になるので、第6章の項目5は提案しないほうがよいかも。人口が減少するので、コンパクトシティにせざるを得ないのかもしれないが、新潟聖籠病院の近くである必要はない。

委員 高齢者が自立して生活できる仕組みをつくるのが重要であり、新潟聖籠病院の周辺にこだわる必要はないと思う。

委員 民間事業者として介護施設や介護サービスを提供しているが、重要なことは利用者から選ばれることである。住民との対話は重要になると思う。

会長 生涯活躍のまちは、住民と議論してつくる必要があるだろう。

委員 第6章の「構想実現方策の検討」を、「構想実現方策の検討材料」としたらどうか。最後の項目5は、検討すべき課題として掲載したらどうか。立地場所、地域特性の活用、住民とのコミュニケーションなどを課題として加えることではどうか。

会長 具体像もイメージの一つである。項目5は、「聖籠町の今後の取り組み」ではなく、「聖籠町の今後の課題」とし、地濃委員の意見のとおり加筆して、報告したらどうか。

委員 課題を箇条書きとして、解説はいらないのでないか。

会長 委員の意見のまとめ方ではどうか。

委員 シンポジウムの資料にデメリットも掲載されており、あえて結論を出さずに掲載したらどうか。

委員 同意見である。

委員 同意見である。

会長 本日の研究会の意見を含めてまとめ、報告としたい。

事務局 P138 頁以降は、課題として掲載することによいか。

会長 町民との意見交換などを含めて、説明は省いて箇条書きでまとめる。掲載の順番は、地域包括ケアシステムの構築、交流施設の検討、側面支援から、事業用地の選定、町民との議論の場の確保などを並べることとでよい。財政負担については今後の検討でよいのではないか。

委員 地域包括ケアシステムの構築ではなく、充実ではないか。

会長 地域包括ケアシステムができている自治体は、まだないので構築ではないか。

委員 さらに充実ではどうか。

会長 最後の部分を手直しして、事前に委員に配布し3月15日を迎えたい。

事務局 修正した部分ができるようにして、第6章部分だけをお送りしたい。3月15日は最終の研究会であり約30分で最終確認をしていただき14時から町長との懇談会としたい。

以上